

2022年度重点領域研究助成費実績報告書

2023年3月31日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉 和子
研究課題	学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発					
研究期間	2021年度～2022年度					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	住吉和子	看護学科・教授	成人看護学	統括	
	分担者	渡辺 富夫	情報システム・特任教授	情報システム	コミュニケーション教育に関するアドバイス	
		関根 伸太郎	看護学科・教授	英語教育	英語教育に関する教授方法の検討	
		岡崎 愉加	看護学科・准教授	助産学	講義・演習に関する教授方法の検討	
		安酸 史子	関西医科大学・看護学部教授	看護教育学	学部および大学院カリキュラムの構成と運営に関するアドバイス	
		藤堂 由里	看護学科・助教	成人看護学	データ収集	
研究実績の概要	<p>【目的】 1年目の結果に、講義・演習での学びの統合の現状を明らかにし、教育の工夫を行っている大学での取り組みについて情報収集を行い、本学での学びの統合を促進するための教授方法の開発を行う。さらに、本学科の教育の中心である「ヒューマンケアリング」を学んだという実感を持つことができることを目的とする。</p> <p>【方法】 1年目の研修会の結果と今年度の学生インタビューをもとに学科のカリキュラムを見直し、「学びの統合」が可能なカリキュラムを考案する。 対象は、基礎看護学実習ⅠとⅡを修得し、各論実習で成人看護学実習の慢性期実習を修了した4年生2グループ、3年生2グループを対象とした。1グループは5～6名で構成した。</p> <p>【結果】 1. 学生へのグループインタビュー：講義・演習・実習で「わかった」と感じる状況 ≪講義・演習でわかったと感じる状況≫ ・毎回の小テストで、力が付いたと実感した ・2年生の時にTeamsで受けてて、先生たちの話を聞いててわかったというよりは自分で教科書照らし合わせながらわかったと感じた。 ・薬理は、どうしてこれが疼痛に効くのかを作用機序を読んで「わかった」になる。 ・微生物学わかりやすかった。図がすごい多い。どうしてこのウイルスがどう作用するかをなんかかみくだいてわかりやすい言葉で説明があった。 ・関連図とか書くとわかってくる。1年生とか2年生とか基本的なことを習う段階で病態関連図を書かないから、文章で腎臓がなんとかかんとか、ろ過が、</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>って習うだけでそれを図にはしないから、なんかそこで図にしたほうがわかるかなって、今考えたら思う。</p> <p>《臨地実習での理解》</p> <ul style="list-style-type: none">・講義では覚えるのが必死。難しい。実習で心不全の人とか受けもって受けもったことで、ここがこうでこうなるんじゃないかってなる。初めてそこで理解する。・疾患に触れることが授業であんまりなかった。結局解剖に戻る。実習で、この臓器はなんとなくこんな働きしとるってだんだん覚えていく。・寂しいとか意外に言わない、マイナスのことを本当の人間はい言わない。「大丈夫です」って患者さんは言う。「早く退院したいです」ってよく言う。 <p>2. 本学のカリキュラムの中で、「学びの統合」を実現するためのカリキュラム案の作成 学生は系統だけ邸内カリキュラムの中でも理解しようと努力していることが明らかになった。学びの統合が行いやすいカリキュラムにするために、以下の2点を改善した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ヒューマンケアリングを1年次から4年次まで意識して行うヒューマンケアリング科目の設定・成人看護学と臨床病態学を並行して行う。・疾患や症状を説明する際には、可能な限り機序を図式化する。・成人看護学で毎日の記録用紙、報告の方法を統一する。
<p>成果資料目録</p>	